

尊厳死 かごしま

第 2 1 号

発行 日本尊厳死協会 かごしま
 事務局 〒892-0822 鹿児島市泉町1-15
 「財団法人慈愛会 事務局」内
 TEL 099-223-1131 FAX 099-223-2444
 URL <http://www5f.biglobe.ne.jp/~osame/sonngen/index-s.html>

平成22年度尊厳死かごしま総会・公開講演会

「生と死を考える」～公衆衛生医60年の足跡から～
 日本尊厳死協会かごしま名誉会長 内山裕先生を聴いて

日本尊厳死協会かごしま 理事 井上 従 昭

● 静かに、語りかけるように

平成22年度尊厳死協会かごしまの総会・公開講演会の講師は、名誉会長内山先生。今回内山先生は、「生と死を考える」という誰にとっても究極の問題をテーマとして、その重いテーマを、私たち一人一人に静かに語りかけるようにお話しくささいました。

● 歩みの原点・生きる「いのち」

人には、なぜそのように生きてきたのかという原点があります。内山先生の常に一人ひとりのいのちを何よりも大切にするという歩みの原点は、自決した竹馬の友の存在でした。親友であった橋口大尉は、多くの若い部下たちを人間魚雷「回天」で失い、自らは生きて終戦を迎えたものの、その全ての部下たちの遺族への手紙を書き終えた8月18日に、自ら命を絶ていかれました。この親友の死は内山先生のそれからの人生に、常に「彼とまた会うときに、『自分はこのように生きてきたよ』と言えるだろうか」という自らの人生への問いとなり続けます。橋口さんは内山先生の人生の中に「生きていた」のです。

● 公衆衛生医師として・

問いと向き合い続けて

内山先生はその問いと医師として歩む中で向き合い続けました。橋口さんに「こう生きてきたよ」と言えるために、忘れてはならない医師としての仕事として、地域のために、何よりも一人一人の人の幸せのために生きる「公衆衛生医」としての歩みを選ばれたのです。保健所所

長として赴任した奄美で、人々を苦しめていたフィラリアやハブの問題、飲み水の問題に取り組まれ、また本土では赤ちゃん検診等に全力を尽くしていかれました。



● 水俣病との出会い・人の幸せとは何か

先生は昭和45年に水俣病と出会います。病に苦しむ出水・水俣の人々と何度も何度も語り合い、時には厳しい言葉を浴びせられながらも、ついには鹿児島に赴任された井形教授と共同で、全国に例のないかくれた患者の掘り起こしに取り組みられ、見つかった患者の救済に取り組んで行かれました。人の幸せとは何かということを考えざるを得ない状況の中で、その人の住んでいる社会を健康にするという公衆衛生医としての役割を更に強く感じていかれます。同時に人間は傲慢になっているのではないかと、足ることを知らない生活が、豊かさの中で人間の体をむしばんでいるのではないかという思いを強く持たれ、鹿児島湾ブルー計画などの環境の問題へも取り組んでいかれました。

● 美智子妃殿下との出会い・・**人はだれもみな悲しみの存在**

県の衛生部長となった先生は、指宿で行われた自然保護大会に来られた美智子妃殿下が、一人の具合の悪くなった子どものことをずっと気にとめておられたその優しさに心打たれます。美智子皇后はインドでの国際児童図書評議会の講演で、「でんでん虫の悲しみ」という新美南吉の絵本のことに触れられ、その後たびたびこのことを話しておられます。「『人はみな悲しみを背負って生きている。自分だけではない』という気付きから生まれる他者への優しさ』を語るこのお話は、先生の歩みの中に美智子皇后の優しさとともに、確かに息づいていきます。

● 弱者の視点・医療の本質は「優しさ」

先生は昭和63年1月に「弱者の視点」を出版されます。患者という字は心に串が刺さっている、その心に刺さっているものを抜くのが医療だ。看は手と目でできている。手は痛いところをさすり、また手を握ってあげること。目は同じ高さで見つめること。このように語られる先生の言葉には、「『人はみな悲しみを背負って生きている。自分だけではない』という気付きから生まれる他者への優しさを感じます。「優しさこそ医療の本質である」と言いきられる言葉には深い信頼を感じます。「患者さんの医療への不信感は説明不足。医師の一番の条件は話をよく聞くこと」この言葉一つ一つが今の医療への厳しい問題提起ではないかと思えます。

● 死と向き合うこと・・そのために必要なこと

誰もが必ず死ななければなりません。その死をどう受け止めるか、どう向き合うかは今昔問わず人間の課題です。しかし今日、日本人の中に「ぼっくり信仰」が広がっているように思うが、本当にそれでいいのかと先生は問われました。がん医療が進歩した今日、同じ死ぬならがんで死にたいという声が出てきています。死と向き合い、自分の人生を考える時間がそこに与えられるからですが、そのためには無駄な延命治療を拒否し、痛みを取りながら自分らしく生きる時間を持つことが不可欠です。そこに

ホスピス医療（在宅を含めて）と尊厳死の普及は欠かせません。友の死から問われ続け、人々の苦悩と向き合ってこられた先生は、この運動を自らの問題として担っていかれます。

● 尊厳死運動を担って・・**人間らしい死がかなう社会に**

平成8年3月、鹿児島県尊厳死協会（現在の尊厳死協会かごしま）が設立されました。会長はもちろん内山裕先生。それ以降会長として、平成14年以降は名誉会長として、鹿児島の尊厳死運動を担ってこられました。尊厳死運動は世界的には有名なカレン裁判から始まりました。今日、日本でも厚労省の指針も策定されていますが、実際には医療の現場では苦悩が多いのも事実です。安楽死とは全く異なることでありながらも、国民的普及にはまだ至っていませんが、尊厳死法制化のための議員連盟なども結成され、今後ますます国民的な運動になって行くことは確かです。

● よりよい死を迎えるために・・**ある会員の手紙**

私たちは、本当に自分らしく死を迎えるために、無意味な延命治療を拒否しておくこと、尊厳死協会に入会しておくことが大切です。講演の中でも、尊厳死協会に加入した会員の方が、望ましい夫との別れができたことを綴った感動的な手紙を紹介されました。「夫をこの胸に抱いて送ってやりたいと思い主治医に願い・・主治医は快く受け入れてくださり、夫につけられていた全ての器具を外し、ベッドに上がるように言ってくださいました・・」人間らしい死がかなう社会になるためにと、先生が担ってこられた運動は今多くの方の中に、広がりつつあります。

● 生かされて生きている私・・いのちは無限

人間は60兆の細胞からできている。60兆個の宿主が人間。その人間の宿主が地球。さらに地球の宿主が宇宙であるということになる。更に宇宙もまた大きな宿主の一つであるとき、最後の宿主とは先生は私たちに問いか

けました。先人達はそこに浄土、あるいは天国という答えを見出していたのではないか。また、人間とは「からだ」「こころ」「たましい」からなる自然の一部であり、モノとしての人間が死んだことは、人間のすべてが消滅したことではない、たましいは無限の世界に帰っていくのだ、永遠の命となるのだ。講演のしめくり、先生が長年医療者として、いのちに向き合う中で見出してこられた死生観を語られました。

そして最後に、葉っぱのフレディの内容を語り聞かせるように、また自分に語りかけるよう

に話されました。いのちは循環している。死んで終わりなのではない、永遠に他のいのちを生きし続ける、それがいのちであることをお話のまとめとされました。

200名の参加者からは様々な感想が寄せられました。最も多かったのは「いのちは循環している。そのことに本当に安らぎを感じました」というものでした。「弱者の視点に立つ医療」への共感、本当に尊厳死ということがよくわかったという感想も多く寄せられました。

内山名誉会長の上記講演の一部をHPより抜粋



講演は竹馬の友の殉死のお話ではじまり、



自決

昭和20年8月18日午前3時、愛艇の中にて自決所は山口県平生の特攻基地、齢ようやく21歳

自啓録に残された遺書の中から

★君が代のただ君が代の
さきませと折り嘆きて
生きにしものを
★後れても後れても亦
脚達に誓いしことば
われ忘れめや



先生にとって、戦後は終わっていないことが語られ、先生の熱い思いに圧倒された。



先生は、離島・僻地・農漁村の保健所長を体験しながら、生きることの原点を知ったことを話された。



先生は水俣病と出会い、公衆衛生医の背負わなければならない十字架と決意したことを話されたが、先生のすばらしい活躍の足跡を直接知っている私にとって、感慨無量のお話であった。

皇太子殿下・美智子妃殿下をお迎え



でんでん虫の哀しみ

- ★平成10年9月、インドであった国際児童図書評議会でのビデオ講演「子供時代の読書の思い出」の中で触れられた、新美南吉の童話「でんでん虫の哀しみ」
- ★一匹の小さなでんでん虫が、ある日、自分の背中の殻に哀しみが一杯詰まっている事に気づき、もう生きてはいられぬと友達に相談する。ところが、みんなの殻も哀しみの一杯だった。……
- ★自分だけではないのだ、哀しみをこらえ、複雑さに耐えて、生きていかなければならない……
- ★皇后様の心に「何度となく、思いがけないときに記憶に蘇って……」

先生は、美智子皇后の講演の中の、「でんでん虫の哀しみ」に優しさの原点を想ったことについて話された。

弱者の視点

- ★医療の本質は優しさにある。
新約聖書マタイ伝「あなたが、してほしいと望むことを、人にもして差し上げなさい。あなたがしてほしくないと思うことは、誰に対してもしないように心がけましょう。」
- ★心に串が刺さった者と書く患者、求められる全人的医療。
看という字は、手と目とで出来ている、水平視線で。
- ★患者側の医療者への不信感のうち、最も多いのは説明不足。
患者の納得・同意を得て初めて医療は成り立つ。
- ★「傾聴」が重要、「言葉」に敏感でなければならない。相手の立場になって、聞き役に回ったときの心の状態を、仏教では観音様という。

先生はご自身の著書「弱者の視点」で言いたかったことについてもまとめてくださった。

第20回「公開懇話会」のご案内

- と き： 平成22年9月5日（日） 午後2時（開場1時30分）～4時
 ところ： かがしま市民福祉プラザ5階大会議室 鹿児島市山下町15番1号
 (TEL 099-221-6070)
 演 題： 「がんと共に生きる」
 講 師： 三好 綾 先生（がんサポートかがしま代表） ●入場無料●

第21回「公開懇話会」のご案内

- と き： 平成22年11月27日（土） 午後2時（開場1時30分）～4時
 ところ： かがしま市民福祉プラザ5階大会議室 鹿児島市山下町15番1号
 (TEL 099-221-6070)
 演 題： 「在宅医療について」
 講 師： 中野 一司 先生（ナカノ在宅クリニック院長） ●入場無料●

事務局が移転しました

日本尊厳死協会 かがしま
 〒892-0822 鹿児島市泉町1-15 財団法人慈愛会 事務局 内
 TEL 099-223-1131 FAX 099-223-2444
 URL <http://www5f.biglobe.ne.jp/~osame/sonngen/index-s.html>

編集後記

楠の若葉が輝き、新1年生の春が訪れた4月、総会で内山名誉会長の講演は人生を葉っぱのフレディで結ばれ、人はそれぞれおかれた状況を如何に生きるかの知恵をいただきました。次回は9月5日三好綾先生です。多数のおいでをお待ちいたします。

F・K